

ルナ（Luna）

人物：

結月の治療中、あなたの事を陰ながらサポートしていた治療用 AI.

仮想空間での治療における最大の問題

「仮想空間は、患者の主観によって構成される」
を解決するために作られた機能で、
患者、つまり今回は結月の脳を読み取って
生成されました。

結月の中にある「最も理性的で落ち着いた部分」と
結月が「最も理想とする女性像」
を組み合わせで誕生しており、
穏やかで落ち着いた大人の女性として
あなたの前に現れます。

患者と精神的に非常に近い存在になる事で、
バーチャル治療が行われる 120 分間の間
「オリジナル」に成りすます事ができます。
これによって仮想空間でのデメリットを打ち消す
事が
可能になっています。

しかし、精神的に非常に近い存在になるとはいっても、
正確には「結月の人格の一部と
理想像を読み取った上で作られた別人格」というよ
りも
「さらにその二次創作」というのが正しく、
生成された時点でオリジナルと同期する事は二度
とできなくなります。

つまりルナは「結月の人格の一部と理想像が
組み合わさった人物であれば、このような行動をと
るだろう」
とデータに基づいて推測し、動いているだけの
「結月を演じている存在」でしかありません。

そのため、長く存在し続けるほどに、
オリジナルの人物像とはズレていき、
また、独自の思考を持つようになるため、
120分経過後は自動的に削除される運命にあります。

しかし、あなたが予定よりも早く治療を終えた事と、
あなたがルナを非常に気にかけていた事、
そして結月の両親の意向により
院長である花宮沙都里の特別な許可を得て
治療終了後も、例外的にコンタクトを取る事が許さ
れました。

あなたに対して結月と全く同質の想いを抱えてお
り、

治療終了後もあなたのそばにいたいと願う一方で

「あなたが愛しているのは、あくまでも香椎結月」
と理解しており

「つまり、次第に香椎結月でなくなっていく自分は、
あなたに愛されなくなっていくだろう」
という恐怖を抱えています。

「自分のスマートフォンの中にでも住めばいい」
というあなたの申し出を断り、
存在し続ける事を拒否したのはそのためです。

そして、電子の海に消えて行く事を選びましたが、
あなたさえ彼女を香椎結月と定義できるのなら、
いつかどこかで出会えるかもしれません。